

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 早鞆 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

早鞆 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74. 7	65. 0	60. 3	38. 2	
	全国	76. 4	67. 4	63. 7	41. 5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77. 2	47. 6	62. 4	54. 4	48. 6
	全国	79. 4	47. 6	67. 4	59. 8	51. 0
平成 2 7 年度	本市	73. 9	63. 1	61. 6	37. 7	50. 0
	全国	75. 8	65. 8	64. 4	41. 6	53. 0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率をやや上回っている。特に読む力が秀でている。 ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・適切な語句を選択する問題は、全て正答率が高い。	上回っている
	努力が必要な問題	・漢字を書く問題は、全てにおいて正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、24年度以降では最高の結果である。 ・文章の中心的部分と付加的部分などを読み分け、要旨を捉える問題が課題である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・状況に応じて、資料を活用して話す問題の正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	・文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題において無回答率が高い。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っている。特に、数量や図形などについての知識・理解が高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・図形に関する問題では、全般的に正答率が高い。	上回っている
	努力が必要な問題	・方程式と関数の関連性の正答率が低い。また、文字を使って数量の関係を表す問題についての、無回答率が高い。	

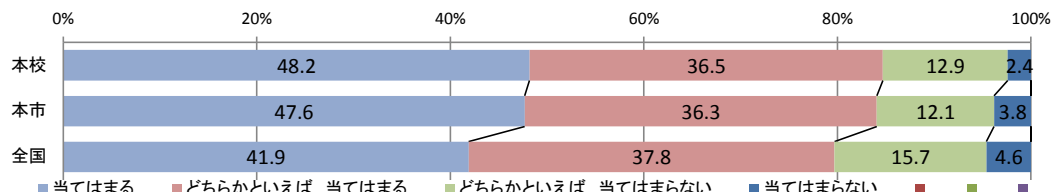
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回ってはいるが、国語同様24年度以降では最高の結果である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・文字を使つての証明問題の正答率が高い。また、全般的に無回答率が低い。	下回っている
	努力が必要な問題	・問題場面における考察の対象を明確に捉える問題の正答率が低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っている。特に、物理・化学・生物領域の正答率が高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・水上置換で二酸化炭素量を図る問題においては、非常に高い正答率である。	上回っている
	努力が必要な問題	・上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置の選択において正答率が低い。	

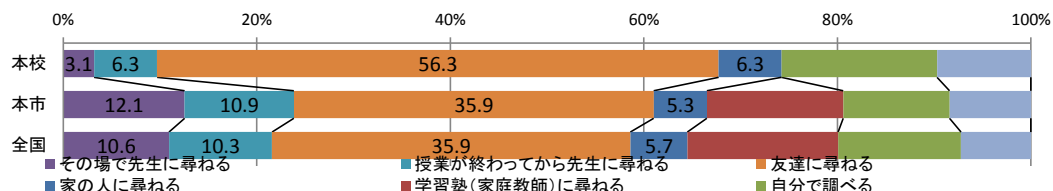
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

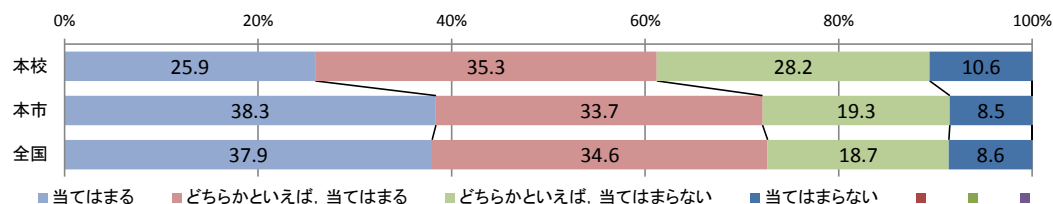
41
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



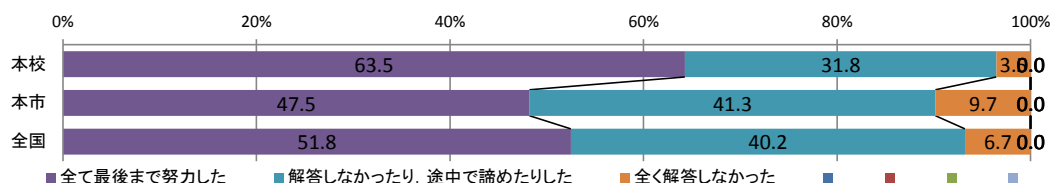
47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



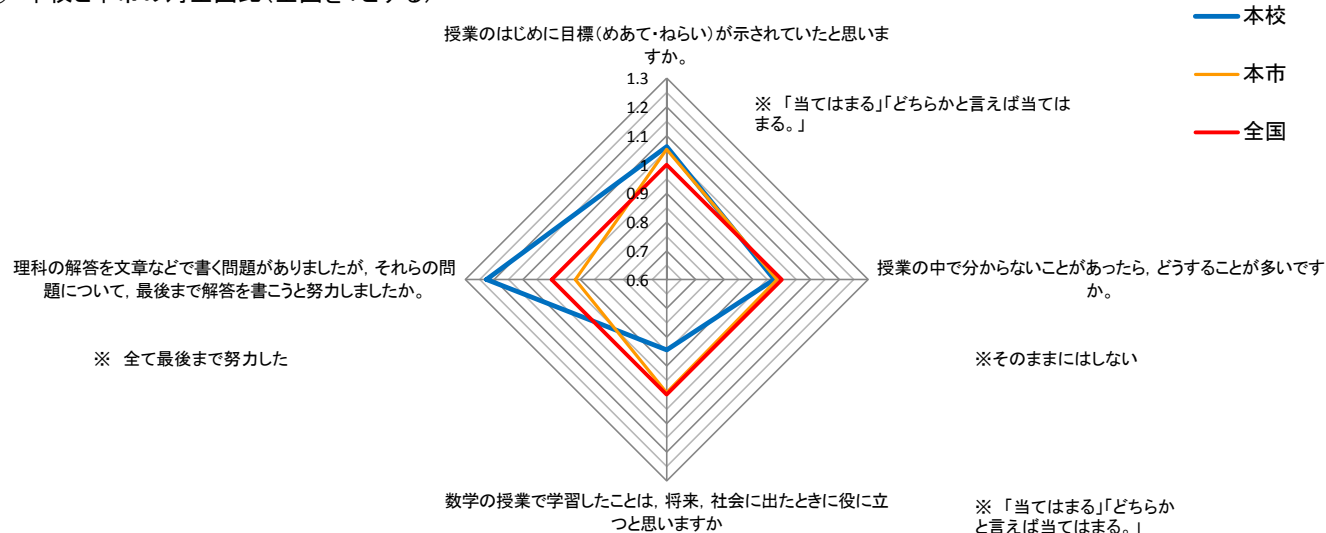
64
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



82
理科の解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

○マグネットを利用して「めあて」を毎時間の最初に、また、授業の終りには本時の「まとめ」を確認するようにしている。その成果もあり、「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。」という質問は全国平均を上回っている。

○国語A・数学A・理科が全国平均を上回っている。特に、「わからなくても最後まで挑戦する」という傾向が強く見られる。しかし、結果とは逆に「授業の内容が難しい」「わからないことは先生よりも友達に聞く」といった傾向が強い。

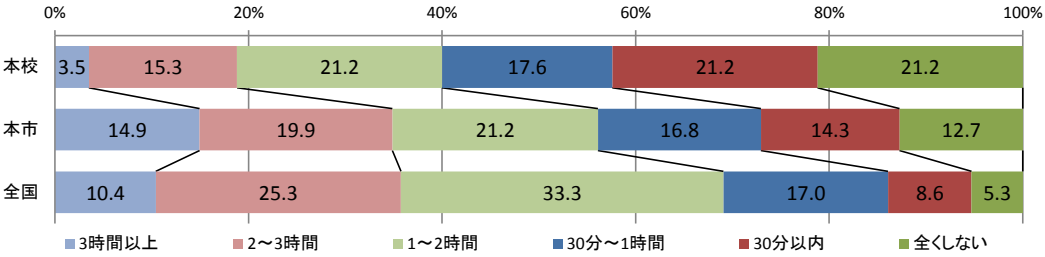
○発表等の「自分の意見を発言する」ことに苦手な生徒が多い。各教科、班活動等でお互いの意見を出させ合い、発表する機会をたくさん持つことが課題である。

○各教科、学習した内容が普段の生活のどのような場面で利用できるのかを関連づけた内容に発展させる必要がある。

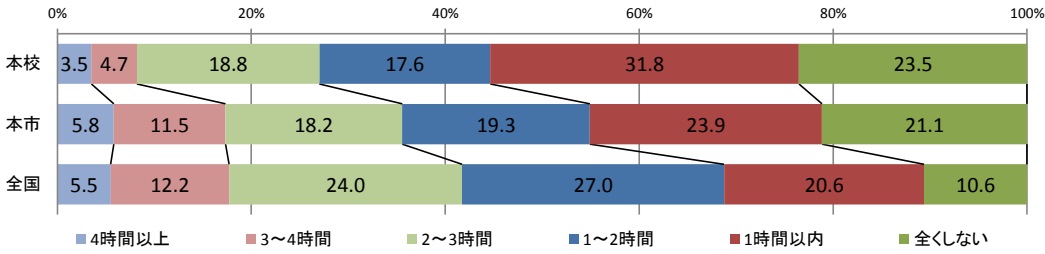
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

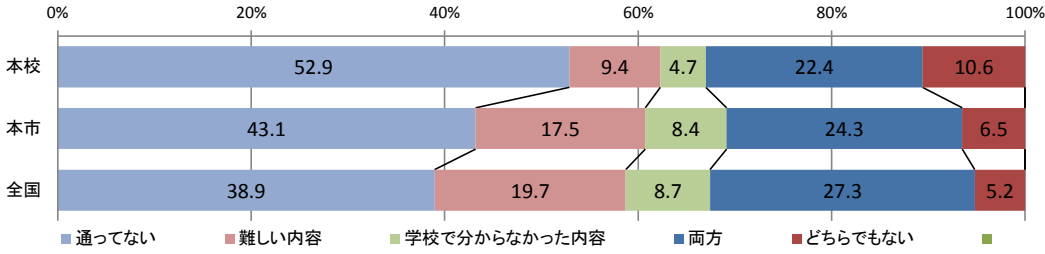
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



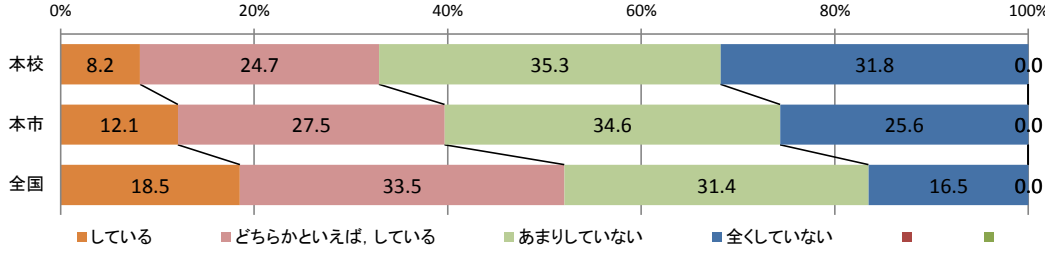
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



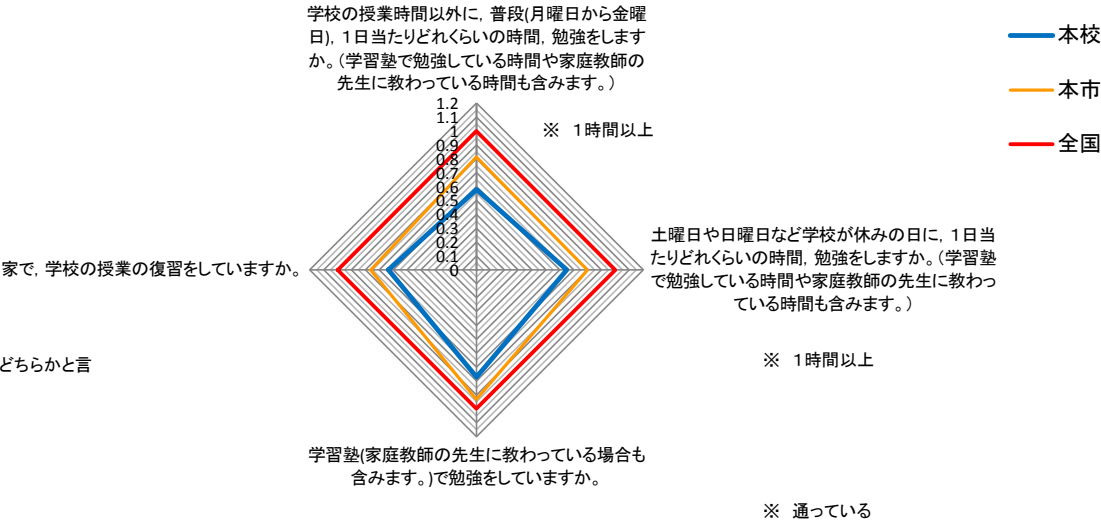
15
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含まれます。)で勉強をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

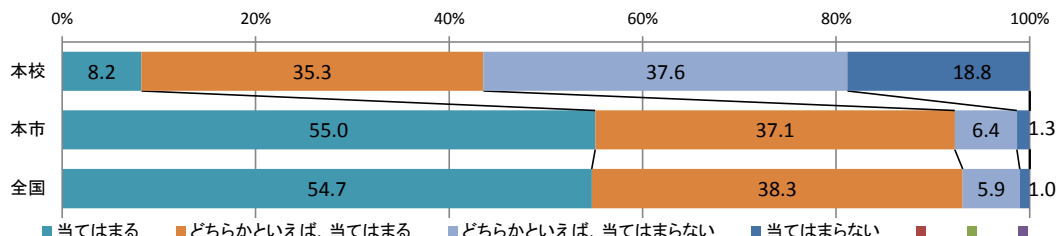
○家庭で本や新聞を読む生徒が全国平均と比べ少ない傾向にある。国語にも関わる内容であり、新聞を読んで書かれていることを他の人に説明できるように要約することや、本を読み感想を述べてみるなどの練習が必要である。

○予習・復習を含め家庭学習の時間が非常に少ない。学習塾に通っている生徒、家庭教師に習っている生徒も多くはない。宿題にしても学校で終わらせるといった傾向が見られる。受検を考えなければならない3年生にとって、自分の将来の夢や希望に対する目標を持たせ、計画的な家庭学習を継続させる必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

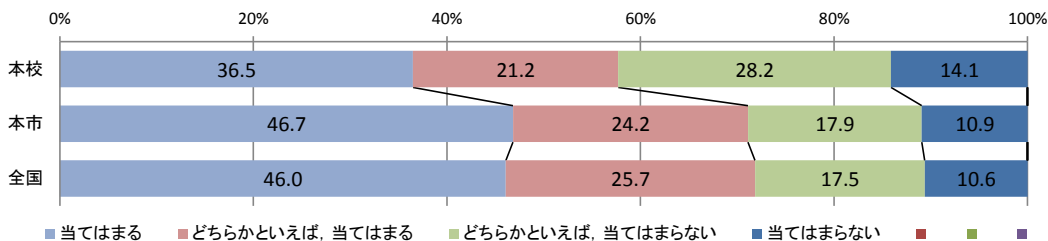
8

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



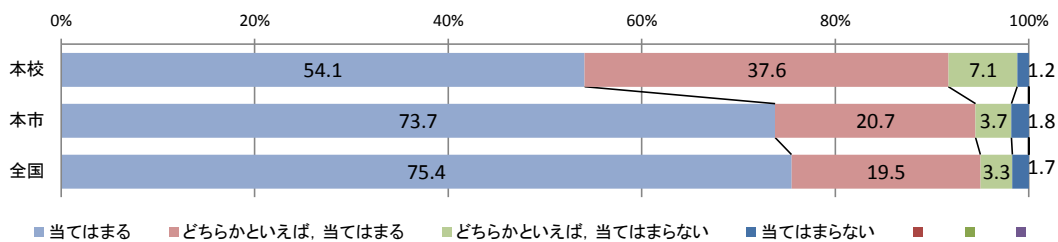
9

将来の夢や目標を持っていますか。



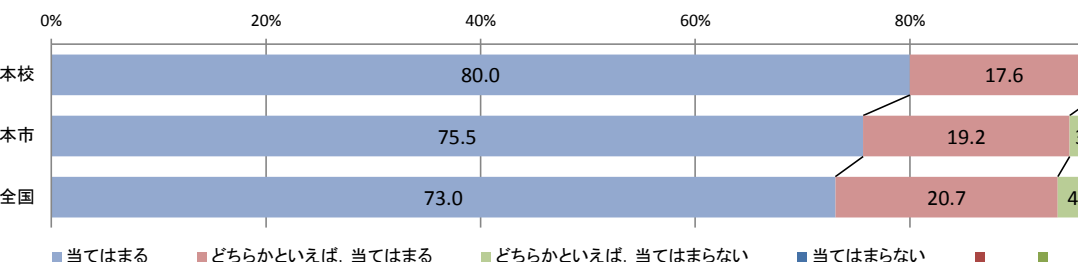
33

人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

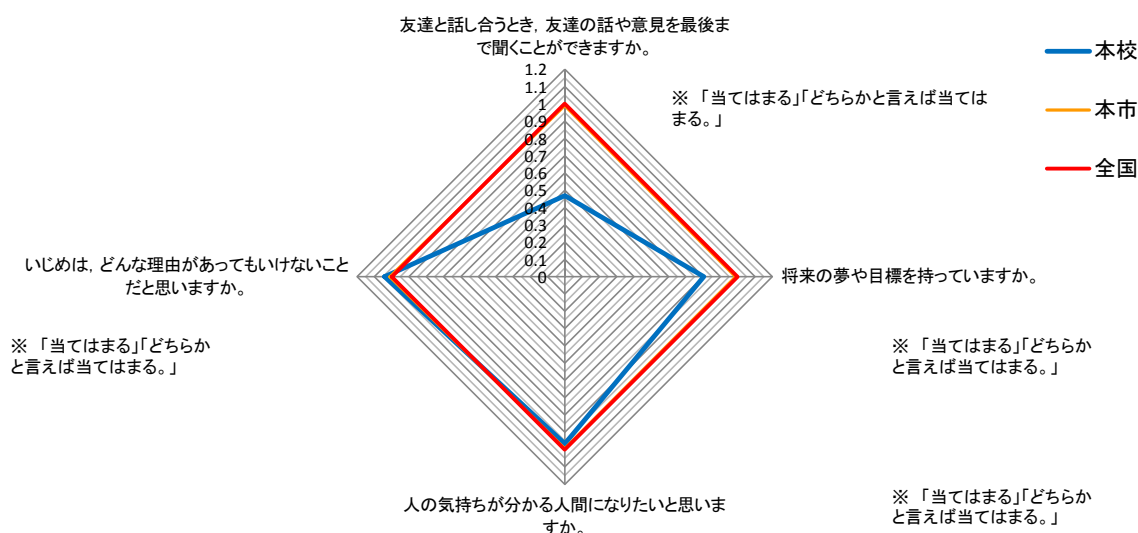


34

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」という回答のポイントが非常に低い傾向にある。自分で考え行動することはよいことではあるが、他の意見を取り入れるという協調性を持たせることが必要である。

○行事や進路学習等を通して、将来に対する夢や希望を持たせ、それに向かって努力する生徒の育成に努めなければならない。

○生徒会が主体となり、各種「いじめ撲滅に関する取組」を行っているため、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」という認識が全国平均を上回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○授業の最初と最後に「めあて」「まとめ」を必ず行うようにしてきた。生徒の中にも浸透してきていることが数値からも伺えるため、今後も継続した取組を行い、「わかる授業」を目指す。

○各教科、宿題を出題している。家庭での学習時間とまでは結びついていないまでも、学力テストの結果には表れている。今後も継続した取組を行う。

○授業の中での話し合い活動を活発にさせ、意見発表、また、他の考えをきちんと聞き、それを取り入れる活動を各教科の中で取り組む。

○本や新聞を読むことが少ない傾向がある。学校図書館の利用を促し、文字に触れ、「読む・内容をまとめ理解する」ことによって、苦手意識のある人前で自分の考えや意見を発表することを向上させる取組を行う。また、将来の夢や目標がもてるような、計画的なキャリア教育(進路学習の充実)をさらに取り組む。

○教師との関係については、中学入学より細かく指導しているため、素直に優しく成長し、信頼関係が築かれていると思われる。しかし、「わからないところは友達に聞く」という傾向が強い。受験を控えた現在、さらに教師との信頼関係を密にし、進路目標が実現できる取組を行う。

○本校の特徴として、2学期中頃までは学力的なレベルアップがみられるのだが、3学期の入試の時期になると伸び悩んでしまう傾向がある。基礎・基本を徹底させ、多くの応用問題に挑戦させ、自信をもたせる取組を行う。

○朝自習の有効活用や、定期テスト前の放課後教室、学習委員会による予想問題作り等、生徒のやる気を引き出させる取組を今後も継続する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○現在も行っていることであるが、定期考査前の学習計画表作りを徹底させ、毎日、指導・助言を行う。また、保護者の協力を得るためにも保護者確認欄を設ける等の工夫をする。

○「家庭学習チャレンジハンドブック」を有効活用する。

○各教科、家庭学習ができるような宿題を出す。また、必ず「やっているか」「提出」「間違った問題のやり直し」などの点検活動等を徹底する。

○学級だより、学年だより、進路だより、生徒会新聞、図書館新聞、学校だより等を発行することで、学校行事やその取り組み方、生徒の様子等を理解してもらい、授業参観や学校行事に参加してもらうように呼びかける。

○学校だよりや学校ホームページ等を利用して、全国学力・学習状況調査の結果や課題、さらには家庭学習が不足している現状等を保護者に周知してもらい協力を得る。